



木曽林務課だより

9月

山の木々の葉の緑が最も色濃くなる8月ですが、今年は、ナラ類の木の葉が赤茶色に枯れる「ナラ枯れ」が目立ちました。

ナラ枯れ（ブナ科樹木萎凋病による被害）について

樹木が衰弱・枯死する原因は様々ですが、現在、木曽南部でナラ類が枯れているのは、体長5mmほどのカシノナガキクイムシが媒介する菌により、通水障害を起こすブナ科樹木萎凋病によるものです。

木曽地域での被害は、南木曽町、大桑村に続き、昨年、上松町でも確認されました。

ナラ枯れ被害はミズナラ・コナラのほかクリ、常緑のシイ・カシ類などブナ科樹木で発生します。しかし、ブナ・イヌブナは、この病気では枯れないことが知られています。また、コナラはミズナラと比べると、幾分枯れにくいようです。



カシノナガキクイムシ成虫
(左：メス・右：オス、1マス1mm)

カシノナガキクイムシは、被害木の中で越冬し、翌年6月以降に羽化・脱出して新たな立木に被害を拡げます。このため、今年の被害木は来年5月頃までに伐倒し、薬剤くん蒸または破砕か焼却してしまうのが理想的です。

また、被害木を薪や炭等の燃料として利用することでも被害拡大を抑制できます。しかし、作業が困難な急斜面等のナラ類の高齢・大径木ほど被害に遭いやすいことから、対策を進めるのは容易ではありません。

なお、被害木を移動する場合は成虫の羽化時期を避け、薪として使用する場合はしっかり乾燥して翌春までに使い切り、炭化・破砕等の処理を行う場合も翌春までに処理を終えるよう、ご注意ください。



被害木の根元はカシノナガキクイムシの穿孔で生じたフラス（木くずと糞が混ざったもの）が目立つのが特徴